

2005年度 原子核三者若手夏の学校三者総会議案書

2005年度三者事務局（名古屋大学）

1 2005年度三者準備校（大阪大学）

文責：東 建志、津村浩二（大阪大学）

1.1 宿泊者予約に関して

本年度の三者準備校では、オリンピックセンターに対し大幅な宿泊のキャンセルを行いました。この事に関してオリンピックセンターより団体として注意を受け、その理由書の提出を求められました。このような事態を招き三者準備校としては申し訳なく存じます。

準備校が考える主要な要因は以下が挙げられると思います。

- 東京開催と言うことで、途中参加が用意になった点
- 参加者の宿泊に対する意識の変化
- 参加者数の減少

今後同じ失敗を繰り返さないために、その原因と改善策について御意見を頂きたいと考えています。

最後に、この事に関しましてアンケートに幾つかの質問を載せています。今後の重要な資料となりますので、解答の方を是非宜しくお願いします。

1.2 若手活動への提案及び確認

1.2.1 提案

- 基礎物理学研究所への援助申請について

－ 基礎物理学研究所への援助申請を講師旅費以外の名目にすることを提案する。

講師旅費でもらう場合は学生を含めた講演者にその旅費補助を使う。（詳細は口頭にて説明します。）

- 決算報告について

－ 決算報告の決定稿を作成することを提案する。

役職の引継ぎのため秋の学会で決算報告が行われるが、その後にお金の動きがあった場合、決算が明瞭でない。議案書、議事録とともに過去の収支が分かるようにする。（三者センター校がその業務を担当するのが適当と思われる。）

- 総会の決定事項の明文化

－ 総会の決定事項の明文化を提案する。

過去の決定に持続性がないという問題が生じている。今後の決定を意味のあるものにするために決定事項を明文化し規約として管理する。（三者事務局がその仕事をするのに適当と思われる。）可能ならば過去の議案について現在必要なものをまとめ、承認を取り規約を作る。（規約の作成については現在の M1-2 が適当と思われる。）

- 役職校の選定について

- 三者準備校を除く役職校の仕事を全ての大学が受け付けることを提案する。三者準備校については現在のローテーションルールを引き継ぐ。

- 春秋学会における総会の権限

- 春秋学会の総会では80%以上の承認で可決・施行ができる。

人数が少ないことを理由に春秋学会の総会は決議を先送りしているが、早急な決定が望まれる場合もある。(過去の議案により金銭の関わる議案については決議できることが確認されている。)

1.2.2 確認

- 予算獲得について

- 三者センター校(もともと予算WG)は予算獲得に努める。

近年は予算獲得より支出を減らす努力を行っていたが、素粒子論グループからの援助が打ち切られないためには継続した予算獲得の努力が必要。

- 不祥事対策

- 三者準備校はセクハラを含む不祥事対策(もともとはセクハラ対策WG)に努める。

規約をによる処分は現実的ではないため行わない。被害者の意見及び警察等の判断を仰ぐ。支援団体への実名を含めた公表は行わない。

2 2005年度センター校(東京工業大学)

文責：佐藤隆一(東京工業大学)

2.1 活動報告；援助と協賛について

2005年度三者センター校は例年通り、以下の団体に対して経済的援助あるいは協賛を依頼し、承認を得た。

- 援助：基礎物理学研究所: 50万円*, 素粒子論グループ: 45万円
- 協賛*: RCNP(核物理研究センター), 原子核談話会, 高エネルギー研究者会議

* 基研からの経済的援助は講師旅費とポスター印刷費を合わせて(上限)50万円。

また、ポスター印刷費(上限10万円)は実際にかかった費用のみが支払われる。(今年度は¥53,025)

* 『協賛』とは、三者の配布する夏の学校の宣伝ポスターに『~協賛』の文字列を入れること、及び機関紙等において夏の学校の宣伝をさせて頂くことを許可して頂いたという意味である。

2.2 2005年度夏の学校決算報告

2.2.1 収入予定

- (1) 前年度繰越金: ¥1,489,544 (確定)
- (2) 参加費(参加者が300名の場合): ¥3,000 × 300 = ¥900,000 (予定)
- (3) 外部団体への援助・協賛申請: ¥921,925 (確定)

収入合計: (1) + (2) + (3) = ¥3,311,469 ≈ 331万円

2.2.2 支出予定：各役職校からの予算申請を元に作成、内訳は次節以降に記載。

役職校	担当大学	今年度決算予定額(申請額)	前年度決算額
三者センター校	東工大	(3,000)	1,410
三者事務局	名古屋大	(4,000)	0
三者準備校	大阪大	(457,700)	184,472
三者名簿校	茨城大	(0)	0
三者HP・ML校	千葉大	(0)	0
素粒子パート事務局	茨城大	(0)	0
素粒子パート準備校	新潟大	(19,000)	24,020
原子核パートセンター校	大阪市立大	(0)	0
原子核パート準備校	新潟大	(10,080)	10,004
高エネルギーパート準備校	東邦大	(5,000)	3,760
講師旅費		120,340	83,650
ポスター印刷費(上限10万円)		53,025	72,500
学生旅費補助		-	1,439,570
次年度繰越金		-	1,489,544
計		約331万円(=収入)	3,308,930

2.2.3 各三者役職校の支出

- 三者センター校(東京工業大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
振込手数料	3,000	780
アンケート郵送費	0	630
旅費(基研)*	0	0
計	3,000	1,410

* 基研からは旅費が1人分しか出ないので、基研へ2人行く場合、2人目の分を三者から負担する。

- 三者事務局(名古屋大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
コピー代	4,000	0
計	4,000	0

- 三者準備校(大阪大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
下見・交通費	0	14,010
施設使用料金	207,700	65,400
コピー代	120,000	20,320
文具代	30,000	9,462
通信費	30,000	25,000
郵送費	40,000	32,800
払い出し手数料	30,000	17,480
計	457,700	184,472

2.2.4 各パート役職校の支出

● 素粒子パート

－ 素粒子パート準備校 (新潟大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
録音関係費	12,000	13,678
通信費	2,500	7,930
消耗品代	2,500	934
研究会費	2,000	1,478
計	19,000	24,020

● 原子核パート

－ 原子核パート準備校 (新潟大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
原子核研究への原稿郵送料	580	580
各投稿者への原子核研究と別刷の郵送料 340円(冊子小包)×25人	8,500	8,500
文房具代	1,000	924
計	10,080	10,004

● 高エネルギーパート

－ 高エネルギーパート準備校 (東邦大学)

申請項目	今年度申請額	前年度決算額
文房具代	5,000	3,760
計	5,000	3,760

2.3 各役職校の決算提出について

決算時には、以下の手続きをして頂きますので各役職校の方はご承知下さい。

● 領収書の郵送

領収書は決算時に三者センター校(東工大)まで、まとめて郵送して下さい。

決算報告(メール)と見比べやすくするため、領収書の上下隅もしくは裏面に番号を振って下さい。

● 決算報告の提出(メール)

決算報告をメールでお願い致します。このとき、各項目にどの領収書が対応しているかが分かるようにして下さい。詳細については後日連絡します。

● 残高の振込み

三者センター校から各役職校に入金(お渡し)した金額が

- 残った場合 → 三者センター校の指定する口座に残金を振り込んで下さい。
- 足りなかった場合 → 不足分をお知らせ下さい。三者センターが各役職校へ不足分を振り込みます。

2005年度の秋の学会の開催地・日程は以下の通りです。

秋の学会

開催地： 大阪市立大学 日程： 2005/9/12 (月) ~ 2005/9/15 (木)

秋の学会にて決算報告を行うため、『8月22日(月) 17:00』までに決算提出、領収書の提出をお願い致します。期日までに提出できない場合には下記連絡先に必ずご連絡下さい。連絡も領収書の提出もない場合には、三者からの支払いができない場合がありますのでご注意下さい。

連絡先

〒152-8550

東京都目黒区大岡山2丁目12番1号

東京工業大学大学院 理工学研究科

基礎物理学専攻 素粒子理論(坂井・伊藤)研究室

2005年度 三者若手夏の学校 三者センター校 宛

E-mail: yonupa-heihei@th.phys.titech.ac.jp

phone: 03(5734)3540 fax: 03(5734)2745.

2.4 DCアブスト廃止案

本三者総会ではDCアブストの廃止についての承認を求める。

(注. 「DCアブストとは何か?」については過去の議案書・議事録等を参照して下さい.)

DCアブストは三者センター校が中心となって運営しており、現在の活動内容は主に次の3つである。

A. 自分の研究の紹介 (夏の学校に限定しない)

B. 自分達の研究室の紹介

C. 夏の学校の研究会報告

これら A~ C の活動内容がDCアブストの活動としてふさわしいか否かについて、前回の三者総会 (@春の学会) で議論が行われた。結論はそれぞれ以下の通りである。

A. 三者若手として機関誌に投稿するのではなく、個人で投稿するのが妥当である。

B. 機関誌に投稿するまでもなく、三者若手のホームページにリンクを張れば十分である。

C. 原子核パートでは、既に、パート研究会の口頭発表者による Proceedings をまとめたものを『原子核研究』に投稿している。(これはDCアブストの活動とは全く別の活動である。) 従って、夏の学校の研究会報告は三者若手としてまとめるのではなく、各パートごとに機関誌に投稿するのが妥当である。

以上の議論から、(現在の形式での) DCアブストは存続する意義がないという結論に達した。本三者総会では、DCアブストの廃止についての承認を求める。

3 2005年度三者事務局からの報告

文責：松崎真也 (名古屋大学)

3.1 活動報告

- 2004年8月 2004年度三者事務局から引き継ぎ

- 2004年8月～9月 秋の三者総会の運営
- 2004年11月 春の三者総会のためのインフォーマルミーティングの申し込み
- 2005年3月 春の三者総会の運営
- 2005年3月～ 講義録集め (現在進行中)
- 2005年6月 秋の三者総会のためのインフォーマルミーティングの申し込み
- 2005年7月～ 次期役職校選定のための交渉
- 2005年7月～8月 夏の学校における三者総会の運営

3.2 会計報告

内訳	申請額	使用額
コピー代	4,000	0
計	4,000	0

これで確定である。

3.3 役職校の選定 (承認)

2008年度三者センター校	名古屋大学
2008年度三者準備校	東京大学 (交渉中)
2007年度三者事務局	金沢大学
2007年度三者ML・HP管理校	お茶の水女子大学
2007年度三者名簿校	筑波大学 (交渉中)

以上について承認を求める。

4 2006年度三者準備校

文責：高橋圭次郎 (京都大)

4.1 2006年度夏の学校の開催地、開催時期についての報告

2006年度の開催日の選定、および開催地について討議したいと考えます。開催日は8月上旬に例年通り5泊6日の期間とします。具体的な期日について不都合がないかの確認を行います。開催地は富士(山中湖、河口湖周辺)、長野(木島平、他)、東京(オリンピックセンター)のなかで開催に適した施設の候補と理由を述べた上で質疑応答を行い、来年度の夏の学校の場所を決定するための参考とします。